

平成27年度 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型) 実績報告書

担当課	産業振興課
交付対象事業の名称	花のまち実現化事業

(単位:円)

事業主体名称	事業内容	計画額	実績額
浪江町	花卉研究会を立ち上げ、町内・町外花卉栽培者の連携を深める。研究会では花卉栽培を中心とし、ICT等の新技術を取り入れた栽培と新たな農業経営プランの提案、本農業の担い手の育成・確保を行うことにより、花のまちの実現を目指す。	25,920,000	18,654,208
事業経費内訳			過不足額
花の町実現化事業委託料	18,654,208		7,265,792
		計	18,654,208

本事業における重要業績評価指標(KPI)					
指標		指標値	単位	目標年月	実績値
指標①	新たな花卉栽培事業者	3	件	H28.3	1件
指標②	担い手候補の就農体験受入れ数	40	人	H28.3	113名
指標③					
事業効果	②本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値を上回ることはなかったものの目標値(7割~8割程度)達成したなどの場合に選択)				
理由	<p><新たな花卉栽培事業者について> 平成27年末現在避難指示が継続中であり、避難先からの通勤農業になるため営農に係る負担が大きく、新たな花卉栽培事業者は目標値を下回った。しかし、避難指示解除に再開の意向がある農家の営農再開計画を具体化することにより、営農再開の意欲の向上につながった。</p> <p><担い手候補の就農体験受入れ数について> 担い手候補の就農体験受け入れ数については、のべ人数113名の参加があり、指標を達成している。</p>				

外部有識者からの評価	
事業の評価	総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	<ul style="list-style-type: none"> 浪江町の主たる産業は言うまでもなく第一次産業である。今後避難指示準備が解除され住民帰還と町の復興が進展するに伴い、産業としての特色ある農業経営が求められる。かつ、事業を継続していくうえでその担い手の育成・確保が非常に重要なこととなる。「花卉研究事業」はその方向性と将来像を示してくれた効果ある事業ではなかったかと判断されます。 食する農作物は風評で生産しても消費が出ないと思う。ICT等の新技術を取り入れた花卉栽培による農業は、帰還する人の雇用創出に繋がるし、今の当町の現状を考えるとマッチしている。営農再開は必要なのではないか。 農業も労働条件により、就職の選択肢に入ること、これからの農業のあり方、花卉栽培の方向性が示されたと思う。

事業の今後について	
今後の方針	②事業内容の見直し(改善)を行う(または行った)
理由	<p><新たな花卉栽培事業者について> 今後町では、福島県営農再開支援事業等を活用して、営農再開に必要な支援に努めていく予定である。</p> <p><担い手候補の就農体験受入れ数> 参加校の一つである早稲田大学では、浪江町を支援するサークルが立ち上がり、翌年度意向も継続した交流が見込まれる。町ではふくしまの恵みPR支援事業等を活用し、今後も大学生と農業者の交流拡大に向けて支援を行っていく予定である。</p>